

L.津福、世界唯一の特許を取得!!

りんどう
LC通信
かわら版
平成15年
5月23日
第10号
PR委員会発行

このかわら版も、今期委員会であと2回の発行となりましたが、なかなかネタ探しに、今回も四苦八苦している中、我らりんどうライオンズクラブのL.津福の会社が新しく筑後の一条付近に工場を建てられたという事で、この御時世の中にガンバってる会社との思いで、L.津福にお話をお伺いしました。

Q 今度大きい工場を建てられたそうですが、どんな工場なんですか？

A 特殊空調機を作る工場で、その空調器とは、ここ数年間で開発し、特許を取得したもので、この機械の特徴は第1に従来の電気使用料が三分の一以下で済む。第2に、0.1℃単位で温度を制御でき湿度も同様に制御出来るという点です。

現在、九州工業大学、北九州市立大学、熊本県立大学、宮崎農業試験場、などの各研究施設で活躍していますし、今度、筑波の研究施設にも導入しました。今後は化学、薬品、IC関連の研究や各方面の研究施設への導入を進めていきます。



新工場の敷地面積2500坪に300坪の建物、2月竣工で施工は高松工務店による新工法にて建築

この空調器の開発に掛かった費用は、一億円との事。又、この開発のテーマは”省エネ”がスタートで温度、湿度の制御範囲拡大は副産物だそうです。

この中で一番価値あるものは、特許取得に尽きるのではないでしょう。大企業に真似出来ない事をやる。

最後に次世代の為に敢えてチャレンジする**精神と勇氣**と**元氣に賞讃あれ**。

SARS 緊急リサーチ

Q、SARSとは？

A、正式病名は、重症急性性呼吸器症候群（Severe Acute Respiratory Syndrome）。38度以上の急な発熱、せきや息切れなどの呼吸困難を起こす原因不明の肺炎。

Q、感染源は？

A、香港大学の研究では、病原体と見られるウイルスは、「動物から人間に伝染した新型ウイルス」である可能性が高いと発表している。華南地域ではタヌキやヤマネコなどを食材として使う習慣が残っている部分もあり、これらの動物から人間に感染した可能性についても調査が続けられている。

Q、感染経路は？

A、感染はウイルスが口や鼻の粘膜につくことで起こる。洋服について感染する可能性は極めて低いと考えられている。SARSの流行地域から積み出された物品や製品及び動物との接触から人がSARSに感染したという疫学的情報は現在のところない。

また、香港の学者グループの発表では、子供の発症者は少ないと同時に重症化することはまれで、高齢者の致死率が高いとされている。

Q、治療方法は？

A、抗ウイルス薬がある程度の効果を表すようだが、根本治療といえるような薬もワクチンも今のところ登場していない。原因となるウイルスに対して抗生物質は効果がないようだ。20日の読売新聞夕刊で、米カリフォルニア大学の研究チームがSARSウイルスが作るタンパク質を合成に成功したと報じた。今後のワクチン生産の足掛かりになりそうではあるが、動物実験等に数ヶ月要するため、実用化はまだまだ先のようである。

犬声狎語

死期が近づいたとみえて昨今は「仏教」という程の大袈裟なものではないが、このこともしは識っておく必要がある。と柄にもない本を讀んでゐる。▼生まれ今日まで何十回と仏事ごとに関わってきたが仏教の事が何も解っていない。何と疎いことか。多分、仏教徒としてはずかしい思いをする。仏陀と釈迦との違い、戒名とは、遺骨について私の場合知っている。死ぬ間際に少（そんなものが本当にあるかどうか）も分らないへ逝きたいと思つたからに外ならない。これは有名なことばだが孔子の弟子の子路が孔子に「死とは何でしょう」と訊くと「未だ生を知らず。焉んぞ死を知らん」と答える。ブッダも死については語らなかつた。ブッダの内人ウパーティヴァが「解脱した人間が死ねばどうなりますか」と訊くとブッダは「滅びてしまつた者には、それを測る基準が存在しない。ああたこうだと論ずるよすがが存在しない。あらゆること、あらゆる論議の道は絶えてしまふのである。ブッダは死とはそういうものだとつき放している。天台宗の僧作家の瀬戸内寂聴さんも「あの世はありますか」と訊かれると「ありません」と答えるそうです。▼日本の僧侶がそんな答え方をすると「うのはたいへんなことだ、あの世があるという事で、日本の仏教は成り立っているのだから「無い」と答えることはオマンマの喰いあげになることである。しかし天台宗は寂聴さんを破門にしないのである。あなたも一度自分の寺の坊さんに「あの世はありますか」と訊いてみたらどんな答えが返ってくるか興味のあるところだ。▼ブッダも孔子も、あの世は無いといっているのに日本の仏教は「あの世は有る」と教えている。イヤ、これはあなたが勝手に「あの世は有る」と決めておられるのではないですか。こんな事が少し解りだしてきておもしろい仏教の本でした。次号に戒名や遺骨のことを書いてみます。